

開催要項案

趣旨：

不登校・ひきこもり・障がい・貧困・虐待など、何らかの生き辛さがあってもなくても、子どもでも大人でも、共にスポーツを楽しみ、勝ち負けに一喜一憂し、挑戦でき、回復や成長する機会が平等にある地域社会実現の一助となることを目指し、私たちは、2016年よりMKB CUP FUTSAL FREEDOMを開催してきました。

MKB CUPをはじめた当初から、年に一度の「お祭り」、1日だけのフェスティバルとしての大会と合わせて、より日常に近く、短い周期で定期的に行われるリーグ戦を開催したいと考えていました。

日常に練習があり、数か月に一度リーグ戦があり、年に一度大会がある。例えばこのようなサイクルができれば、選手も、応援団も、冷やし団も、参加の仕方がより多様になり、大会や試合で得た経験や交流によって、固まってしまった自分や状況を変化させられるかもしれません。

そうした個人の機会創出に加え、どうすれば違う者同士が、それぞれのままで共にいることができるのか、楽しみ競い合う事が出来るのかを試行錯誤することは、誰もが安心して暮らし、満足できる人生に何度でもチャレンジ可能な社会を創るための、スポーツを通じた「探求」であるという思いをこめて、ダイバーシティラボと名付けました。

何かにチャレンジする、誰かと関わる、違いを認め合うという経験は、楽しく心地いいとは限りません。不快で辛い思いをすることだってありえます。それをやるかどうかは、ひとりひとりの自由な選択です。

ただ、一度社会の「当たり前」や「正しい」とされる枠から離れたら、やるかどうかの選択肢も与えられないのが社会の現状です。それを変えていきたい。

嫌いなのは、辛いことそのものではなく、今日辛いことがほぼ確実に明日の辛さを生み出してしまうこと。変えたいのは、特定の困難な状況になってしまえば、それをもう、自分で変えられる機会がなくなること。恐れるのは、変えられない状況を生きるため、良いことも悪いこともない、「なんにもない」を望まざるを得なくなることです。自由に生きられなくなることです。

なるべく多くの「かもしれない」を誰の生活にも。

「明日のワタシは自分史上最高に美しいシュートを決めてしまうかもしれないな」

誰もがそれぞれの試合前夜、そう信じて眠りにつく、多様で、自由な社会を創っていくための、探求でありチャレンジであると思っています。

MKB リーグ ルール案

ダイバーシティワンマッチルール

目的：

自由で多様な参加と安全性の向上

体格差・性別・障がい等、努力や練習によって埋めがたい力量差を小さくし、どのチームも「楽しんで勝つ」ことを目標にできる

それらをコミュニケーションによって達成する

以下のルールから、試合を行う両チームキャプテンの話し合いにより、適用するルールを決定する（いくつでも可・基本ルールはマスタークラスルール）
ルールはすべて、片方のチームにのみ適用することもできます。

- ・ マスタークラスルールのみを適用
- ・ 1メートル以上の高さにボールを蹴り上げることはできない。また、ボールが地面を離れたミドル・ロングシュートは打てない。（個人への適用も可）
- ・ 現所属チーム以外でサッカー（フットサル）経験のない15才以下の子ども・女性の得点は2点とする。
- ・ 選手持ち点を設定し、出場選手の持ち点総数が20点未満でなければならない（出場人数は5人を下回ってもかまわない）
 - 5点 部活サッカー（フットサル）経験が2年以上の15才以上の男性。それに準ずる力量の方。
 - 4点 部活サッカー（フットサル）経験が2年以上の女性と15才未満の子ども。それに準ずる力量の方。
 - 3点 15才以上の男性
 - 2点 女性と15才未満の子ども
 - 1点 サッカー（フットサル）の試合経験が5試合以下の方
- ・ ベンチ入りメンバー全員が4分以上出場する。
- ・ キーパーも手を使ってはならない。
- ・ 試合開始後、チームメンバー全員がボールに触るまで、シュートを打てない。（対象チームが得点すると、試合再開から再び適用される）
- ・ 試合時間は12分ハーフ・8分ハーフより選択。
- ・ その他、両チームの合意があれば、ここにはないルールを追加したり、ルールを微調整してもよい。